

情報活用能力育成のための指導事例【高等学校 第3学年 商業（情報処理演習）】

単元・題材名	開発技術（フラッシュ アニメーション作成技術）	指導時間（本時）	3 / 9
本時の目標	教科・科目	<ul style="list-style-type: none"> システム開発技術について理解する。 アプリケーションソフトウェアの活用技術を理解する。 マルチメディアにおける代表的なファイル形式を理解するとともに、ソフトウェアにおいて活用できる能力を育成する。 	
	情報教育（3観点8要素）	<p>[実践] ■課題や目的に応じた情報手段の適切な活用</p> <p>■必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業人として備えておくべき、情報技術に関する共通的な基礎知識を習得し、業務に対して情報技術を活用できる。 <p>[理解] ■情報を適切に扱い、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務の問題把握及び必要な解決を図るために、論理的な思考力を身に付けるとともに、問題分析及び問題解決手法に関する知識を身に付ける。 <p>[態度] ■社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務の分析やシステム化の支援を行うために、情報システムの開発及び運用に関する知識を身に付ける。 <p>■情報モラルの必要性や情報に対する責任</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティに関する各ポリシー等に従って行動できる。 	
活用する主なICT機器等	<p>■コンピュータ ■実物投影機（教材提示装置、書画カメラ） ■インターネット</p> <p>■Web上のデジタルコンテンツ ■CD-ROM及びDVD等による教育用コンテンツ</p> <p>■スキャナ ■ソフトウェア（プレゼンテーション）</p>		
本時の概要	<p>4班（シナリオ構成・画像処理・効果音及び知的財産権・制作）に分け、フラッシュ形式のWeb用アニメーションを制作させる。また、プレゼンテーションソフトに内容や課題等を記録させ、発表し合うことで共有化を図る。</p>		
本時の流れ	主な学習活動		ICT活用の工夫及び留意点等 (○：教員の活用，◎：児童生徒の活用)
	導入	<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>2 各班で課題を把握し、本時の目標を確認する。</p>	<p>○ 実物投影機を活用し、前時までの進捗状況を提示する。</p> <p>※ 全員に課題を明確に把握させる。</p>
	展開	<p>3 各班で課題解決及び制作をする。</p> <p>4 進捗状況を確認し、課題を相互解決する。</p> <p>5 進捗状況の確認をする。</p>	<p>◎ 教師側が準備した素材か、Web上で著作権フリーの素材等を探し、二次加工して制作・準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 班の代表を集合させ、準備しなければならない画像や効果音等を確認し合わせる。 <p>※ 興味・関心を高め、制作意欲を引き出す。</p> <p>◎ プレゼンテーションソフトに進捗状況を記録させ、印刷後、実物投影機を活用し、発表させる。</p> <p>※ 終末や次時へ学習内容を振り返る。</p> <p>◎ プレゼンテーションソフトのデータを校内サーバに保存させる。</p>
	終末	<p>6 本時のまとめをする。</p> <p>7 次時の確認をする。</p>	
使用した教材・資料（コンテンツ）	<p>○名称・出典・内容など</p> <ul style="list-style-type: none"> 自作教材（プレゼンテーションソフト：制作方法を提示する） フリー効果音サイト 		
ICT活用の指導上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 課題や目的に応じて適切な情報手段を選択して活用することができるようにする。 進捗状況の確認により、振り返りを行わせることで、適切な情報手段の活用ができていくか相互評価し、改善できるようにする。 情報モラルの必要性や情報に対する責任に対し、知的財産権など権利を尊重することの大切さについて理解を深めさせ、適切な行動ができるようにする。 		
備考	<p>○ICT活用に関して日頃から気を付けていることなど</p> <ul style="list-style-type: none"> 制作や準備で作成したファイルやデータは、共有するためサーバに保存する。 動画サイトや音楽サイトへのアクセスも考えられるので、知的財産権の内容を毎時間一つは学習することで、情報モラルの意識向上に努める。 		

【本時の目標における情報教育（3観点8要素）の略記について】

「情報活用の実践力」→ [実践]，「情報の科学的な理解」→ [理解]，「情報社会に参画する態度」→ [態度]

「情報活用能力育成モデルカリキュラム」の対応番号→モ番号